令和５年度

事 業 報 告 書

社会福祉
法　　人　山梨福祉事業会　宝山寮

令和５年度　宝山寮事業報告

総　　括

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）、児童福祉法及び、当施設運営方針と宝山寮基本理念を基軸とし、利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な福祉サービスの提供に努めてきました。

未だ新型コロナウイルス感染防止に係る行動制限がありましたが、利用者のストレス軽減や施設生活充実のため、利用者に楽しんでいただけるような外出や保護者の希望に沿った帰省の機会を設けることが出来ました。

また、保護者向けアンケートの実施など幅広く意見を聞くことにより、利用者、保護者の意向を汲んだ施設運営に努めてきました。

運営方針に対する取り組み

①　安定した施設運営のための利用者の確保について

市町村や相談支援事業所等との連携により、欠員が生じた場合でも速やかに入所に繋ぐことができ、適切な運営を行いました。

施設入所支援では、定員60名を年間を通じて確保できました。

通所支援では、年間2,398名（9.3名/日）の利用がありました。

短期入所では、年間879名（2.4名/日）の利用がありました。

②　利用者の健康管理・食の充実について

利用者の健康管理について、内科、精神科の２名の嘱託医の実施により、早期に対応することが出来ました。また、施設内において、新型コロナウイルスのクラスターが発生しましたが、感染委員会を適宜開催し対策を講じたことで重度化せずに終息することが出来ました。

利用者の食の充実について、利用者個別の要望が反映されるよう、食事状態を把握しながら、医療、業務委託先と連携し多様なニーズに対応することが出来ました。

③　住環境の整備について

宝山寮改築後25年経過し、経年劣化が進み、いつどこが故障してもおかしくない状況であり、消防用設備不良個所修繕や畳表替え等随時対応してきました。また、壁の修復や畳からフローリングに変更することにより、利用者の生活の質の向上に繋げることが出来ました。その他、山梨県の省エネ・再エネ事業補助金を活用し、宝山寮の改築時から使用してきた食堂と作業棟の大型エアコンの取替えを実施しました。

Ⅰ　各種事業

１．　施設入所支援事業（定員60名）

主に夜間において、利用者が快適な施設生活を送れるよう、排せつ、食事等の介護、健康管理、生活等に関する相談・助言のほか、就寝の準備や起床後の着替え・片付け等、日常生活で必要な支援を行いました。

また、土・日（営業日を除く）の日中活動においても、同様の支援を行うことで、快適な生活が送れるように支援を行いました。

２．　生活介護事業（定員 65 名）

利用者が快適な施設生活を送れるよう、入浴、排泄、食事等の介助、健康管理、生活等に関する相談・助言等、日常における生活行為を援助し、身体機能の維持・増進や精神的な安定を図りました。また、生活の質を充実させるため、本人や家族等の希望を細かく聴き取り、個々に支援目標を立て、計画に基づいて、施設内活動や社会参加の機会を提供し、個々に援助を行いました。

〇入所による生活介護サービス

（１）日中活動

①生活支援　入浴・洗濯・食事介助等、日常生活に必要な支援を行いました。

②機能訓練

・軽作業

身体機能の維持や精神的な安定を図る為、製品が仕上がるまでの様々な工程を支援し、個々の能力に合わせて作業に参加できるように支援しました。

・歩行訓練（朝の体操、ウォーキング）

朝体操することで、体を柔軟にし、活動に取り組む準備を行いました。また、気候や天候に応じて、運動不足にならないように寮周辺のウォーキングを行いました。

・創作活動等（壁面装飾・塗り絵など）

壁面装飾や塗り絵等、利用者の趣向や個々の能力に合わせて作品製作を援助し、身体機能維持に努めました。また、創作過程を楽しみながら、季節に応じた作品を完成させ、棟内に展示しました。

（２）余暇活動

単調になりがちな施設生活に、楽しみや活力を与え、快適な施設生活にするため、6 つのクラブ活動（料理・園芸・ドライブ・図画工作・ビデオ・カラオケ）の中から、希望のクラブに所属できるよう配慮し、月 2 回実施しました。

（３）年間行事

年間行事では、納涼会、宝山祭、外出食事会等、日常とは違った余暇時間を提供し、利用者が楽しめる行事を実施しました。納涼祭、宝山祭は保護者や外部からの招待客を受け入れず実施しましたが、キッチンカーや職員手作りのカレーなどを提供し好評でした。また、例年では地域の方々と理解と交流を深めるため、ボランティア祭りや富士ふれあいの村祭り等の地域の祭り

に参加していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で参加を見合わせました。

（４）特別活動

①健康リズム体操

新型コロナウイルス感染対策により、密を避けるため健康リズム体操は回数を減らして実施しました。

②視聴覚部門

利用者さんの興味のあるDVDを購入し、余暇時間や行事の合間などに鑑賞しました。

（５）自治会活動

毎月、利用者活動を行い、いちご狩り、さんま会食、新年会等、利用者の自主的な活動の支援を行いました。また、運営に欠かせない役員の選挙、会計の管理等の支援を行いました。

（６）快適な生活環境の提供

良好な生活環境を維持するため、施設内外の清掃、環境整備を計画的に実施し、病気発生の予防等もあわせ、清潔で住みよい環境作りに努めました。

○在宅者の生活介護サービス（通所）

地域で生活するために必要な日常生活行為を援助するとともに、軽作業や壁面装飾等の製作を行い、身体機能の維持や精神的な安定を図りました。生活の質を充実させるため、本人や家族等の希望を細かく聴き取り、個々に支援目標を立て、計画に基づいて、施設内活動や社会参加の機会を提供し、個々に援助を行いました。

（１）日中の主な活動内容

・生活支援（排泄、食事、歯磨き、着替え等）

・機能訓練（自動車部品組み立てや電化製品ゴムチューブ差し込み作業、ウォーキング、ジグソーパズル等の取り組み）

・余暇活動援助（絵画教室・書道教室・カラオケ・おやつ作り）

（２）絵画教室（月２回）講師の指導の下、３原色を使ってそれぞれが自由に絵を描きました。

（３）書道教室（月１回）講師の指導の下、書道に取り組みました。

１月に行われた山日YBS席書き大会で賞を取ることが出来ました。

（4）健康リズム体操（月４回）講師指の導の下、音楽のリズムに合わせて体操しました。

３． 短期入所事業（定員11名）

在宅で生活している障がい児（者）を対象に、男性７名女性４名の短期入所の定員があり、地域の感染状況に応じて利用可能な際に受け入れを行いました。また、家庭の事情により、帰宅できない利用者については、利用を継続して受け入れました。

４． 外部サービス利用型指定共同生活援助事業（宝夢さくらんぼ）

４名の女性利用者が、日中は、都留市内の福祉事業所を利用しながら、共同生活を送りました。サービス管理責任者が週１回の訪問を実施し、施設整備の確認、利用者の生活状況の把握、

世話人との情報共有、また、急な病気や設備の故障など緊急時の対応にあたりました。また、防災面で、月に１度の避難訓練の実施や、警備会社との契約で緊急時支援体制を整えることが出来ました。入居者の安全な生活を確保するために階段と玄関に手すりを設置しました。

（１）利用者の日中活動状況

地域の事業所への通所 4 名

・就労継続支援Ｂ型 2 名

・生活介護 2 名

（２）巡回状況

施設設備の確認、利用者の生活状況把握と苦情対応、世話人との情報共有のため週 1 回の巡回を実施しました。また、急な病気や設備の故障等、緊急時の対応に当たりました。

（３）利用者のグループホームでの生活状況

市内の就労事業所や生活介護を利用しています。休日は、感染対策を実施しながら、地域行事や買物など楽しむ事が出来ました。また、生活上必要な仕事等を各自で分担し、役割を果たすことで責任感や協調性を養い、衛生的な生活環境を維持することが出来ました。

5．障害児（者）地域療育等支援事業（どりーむ宝）

山梨県から委託を受け、東部圏域（都留市・大月市・上野原市・丹波山村・小菅村）在住の障害児（者）やそのご家族が安心した地域生活を送るための適切な療育指導や相談の実施、関係機関との連絡調整をすることにより適切な情報提供をすることが出来ました。

（１）在宅支援訪問療育等支援事業

今年度も引き続き、言語聴覚士による「ことばの巡回相談」と石和共立病院の作業療法士による「作業療法巡回相談」を実施しました。1 年間の実施日数は３５日、実施件数は１４３件でした。昨年度に引き続き今年度も２１名の多数の新規登録がありました。特に　ことばの発達についての相談が多くありました。

（２）在宅支援外来療育等支援事業

今年度は、放課後等デイサービス宝夢ぐらんど事業所で 1 日外来療育を行いました。講師は茨城県立医療大学の作業療法士に依頼しました。件数は 3 件でした。

（３）施設支援一般指導事業

今年度は、保育園、幼稚園、小学校の訪問や研修会を 17 件行いました。東部圏域が主催の療育関係者研修会を 8 月に行いました。コロナ感染症も 5 類感染症へ移行したこともあり研修会は対面で開催しました。その他の研修会についても圏域内での研修会は対面で行いました。

（４）地域療育連携事業

今年度は、電話相談の指導実人員が 17 名、延べ回数が 56 回、家庭訪問の指導実人員が 2 名、回数が 2 回、来所の指導はありませんでした。

また、12 月に発達障害児支援（学習障害）をテーマにした地域支援研修会を実施しました。他に、自立支援協議会、コーディネーター会議、圏域マネージャーとの連絡会議、山梨県発達障害

者支援センター連絡調整会議、大月市障害福祉計画策定委員会、困難ケースの関係者会議に出席しました。

6． 相談支援事業（どりーむ宝）

指定特定相談支援事業（計画相談）と都留市からの委託による指定一般相談支援事業の 2 事業を行いました。

計画相談事業は福祉サービスを利用する障害児者のサービス利用計画の作成、モニタリング・評価を実施しました。支援件数はサービス利用計画支援、障害者２８件、障害児１８件、継続サービス利用支援、障害者 132 件、障害児 19 件でした。

指定一般相談支援事業は、都留市からの委託を請け、同地域で暮らす当事者に必要な情報提供や助言、障害福祉サービスの利用支援、権利擁護に関する支援を実施した。対象障害者数は 10 名で支援件数は訪問、医療機関の同行、電話やメールによる相談対応、関係機関との調整等で合わせて 487 件、支援内容は福祉サービスに関する支援、健康・医療、生活に関する支援が大半を占めました。

7． 日中一時支援事業

都留市・大月市・上野原市・富士吉田市・富士河口湖町の４市１町と日中一時支援サービスの契約を行い、在宅で生活をしている家族の介護の負担を軽減することや、放課後等デイサービス事業対象外の障害児に対してサービス提供をしました。

8． 放課後等デイサービス事業（宝夢ぐらんど）

在宅の知的障害児(者)、身体障害児(者)の地域における生活を支えるため、家族の負担を軽減する一時養護を目的とし、18 歳以下の児童に放課後等デイサービス事業を、また、放課後等デイサービス事業対象外の障害児については心身障害児(者)日中一時支援事業を提供しました。対象地域は都留市、大月市、上野原市、富士吉田市の 4 市。

主な活動内容

（１）事業所での主な活動

・手洗い・着替え・食事(おやつ)・片付け・排泄等の身辺処理

・挨拶・順番を守る等の社会的なルールやマナーの習得

・知育玩具・迷路・パズル等の余暇支援

・宿題・漢検・保護者依頼のドリル等の学習指導

・『宝夢ぐらんどだより』⇒広報紙（4 半期毎に発行）を作成し配布

（２）集団活動

・講師を招いてのリズム体操教室(月/3 回)

・季節に合わせて、教材を使っての創作活動(月 1/回)

・トランポリン・室内ボーリング等のレクレーション

・周辺散策・ドライブ等の外出支援

・ボランティアによる書道教室（月/1 回）
・専属スタッフによるリトミック活動（週１回）
・音楽ムーブメント 講師による音楽や小道具を使った活動（月/1 回）

（３）季節行事
・カレー会食　7 月 21 日に実施しました。
・日帰り行楽　8月4日　8月8日　2グループに分けて富士サファリパークへ外出しました。
・ハロウィンパーティー　10 月 30 日に実施しました。
・クリスマス会　12 月 21 日に実施しました。
・節分会　2 月 2 日に実施しました。

Ⅱ 食事支援

食事は、利用者にとって、大きな楽しみであると共に、心身の健康維持増進という大きな役割を担っています。このことを念頭に、「宝山寮食事基本理念」を定め、支援課、医療、業務委託先との連携を図ることにより、利用者の多様なニーズに応えることが出来ました。

また、調理機器、調理室、食堂などについては、日々の整備点検を行い、安全な食事を提供することが出来ました。

１．食事摂取基準量及び食品構成

利用者の給与栄養目標量は、利用者の身体状況、活動量、さらに年２回の健診結果を精査し、個別に対応することが出来ました。食品群の組み合わせとその目安量を示す食品構成表を活用し、バランスのとれた献立で提供することが出来ました。

２．食事基本理念

以下の基本理念に基づき食事の提供をすることが出来ました。

（１）利用者の目線に立った、「食べることの楽しみ」を満足して戴く、バラエティーに富んだメニュー、心のこもった食事を提供します。
（２）利用者個々の身体状況を把握し、「健康で元気に生活できる」食事を提供します。
（３）利用者に「安全・安心」な食事を提供するため、衛生管理に充分配慮いたします。

３．嗜好調査

利用者の嗜好については、入所時に本人または、家族等からの聞き取り調査を行い、定期的な調査については、個別支援計画作成時(8 月・2 月)の調整会議にて調査し、意思表示が困難な利用者については、支援員からの日々の喫食状況等の情報を共有し、代替食、除去食など個々の嗜好に配慮した食事を提供しました。

４．安全・衛生管理

利用者の摂食上の個々のリスクについては、医務、支援課との情報を共有し、より安全な形態(刻み食、とろみ食、ソフト食など)で提供することが出来ました。

衛生管理については、厨房内消毒を、半年に１回（5/18・11/27）専門業者に依頼、調理従事者の細菌

検査、日々の点検項目の確認を行い、食中毒・異物混入等の重大事故を防止出来ました。

５．食生活委員会

月１回食生活委員会を開催し、利用者の希望するメニューを反映させ満足していただく食事提供を心掛けました。

６．行事食の提供

四季折々の行事食（正月・節分・節句・彼岸・七夕・野外バーベキュー・盆・もちつき・クリスマス等）についてはコロナ対策を講じた上で利用者のみで開催しました。

７．ＱＯＬを高める支援

意見や要望を聴取する機会としての利用者代表の食生活委員会への参加、月ごとの誕生者による希望メニューの決定、週間献立表の掲示、イベント食等のポスター掲示を行い、食事に関心を持っていただいた。また、利用者に人気ナンバーワンアンケートを実施し、食事に関心を持っていただきました。

８．非常時の対応

災害等の非常事態に備え、約 1 週間分の食料、飲料水を防災倉庫、厨房倉庫に分散して備蓄し、総合防災訓練の際には、非常食を喫食していただくと同時に、一部非常食の入れ替えを行いました。

Ⅲ　医療支援

寮内の高齢者の中で、身体機能の低下が目立ち、身体疾患に伴う病弱化がみられます。また、生活習慣病等の罹患も増加傾向にあります。日々の観察や健診結果を基に、職員・家庭・医療機関と協力し連携を図ることができました。また、回生堂病院とことぶき診療所の医師による保健衛生相談及び診療を毎月実施しました。

１．健康管理について

障害の重度化、疾患の多様化が顕著なため、各種健診の実施により、疾病予防・早期発見・治療に努めることで重症化を防ぎます。基礎疾病が悪化しないよう、関連医療機関の協力を得て健康維持と管理に取り組みました。

（１）検査・健診

・一般健診（採血のみ）6 月 28 日、

・生活習慣病健診 11 月 24 日　山梨健康管理事業団へ依頼し、予定通りに実施しました。

（２）体重・血圧測定・総合測定

・体重測定　月に 1 回予定通りに実施しました。

・血圧測定　40 歳以上及び必要者に対して、月に 1 回予定通りに実施しました。

・総合測定　5 月 15 日、10 月 31 日　全利用者対象で、身長・体重・腹囲・血圧測定を実施しました。

（３）予防接種

予防接種については、本人、身元保証人等の同意により実施しました。

・肺炎球菌ワクチン　4月20日　武井クリニックにて実施しました。

・インフルエンザワクチン　11月6.10.13.16.17.20日　ことぶき診療所にて実施しました。

・新型コロナウイルスワクチン　令和5年6月27.30日、7月18.28日
令和6年1月26.31日、3月29日武井クリニックにて実施しました。

（4）口腔ケアの充実

歯科医師指導の下、歯科衛生士による利用者の歯磨きの仕方を支援員に対して、月2回実施することができました。歯科指導により日々の口腔ケアの質が上がり、利用者の口腔内の環境が良くなりました。歯科検診では、利用者の口内環境の改善を評価されました。

2．衛生管理について

寮内外の清掃及び消毒を励行し、常に清潔な環境づくりと感染予防に取り組みました。

・年間を通して空気清浄加湿器を使用し、感染対策に努めました。

・1日2回、床・手すり等の消毒を実施しました。

3．感染委員会について

山梨県感染症発生状況をもとに対策会議を開催し、地域からの受け入れや行事の実施など協議しました。（定例12回、臨時32回）

・利用者、職員が新型コロナウイルスに罹患した際は、対策会議を開き、拡大防止に取り組みました。

・感染対策実践研修を開催し、個人用防護服の着脱訓練・机上訓練を実施しました。

・感染対策に関する研修を開催し、富士東部保健所から講師を迎え「感染症の予防について」・戸澤歯科医院医師を講師に迎え「口腔内の健康と口腔ケアの方法」などの研修を実施しました。

Ⅳ　地域社会との交流

定期発行の広報誌「はばたき」を地元自治会経由で回覧していただくことが出来ました。

各種行事への参加協力の依頼や地域の行事への参加は、新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、当初の計画を変更して、利用者職員のみの実施としたため、地域社会との交流は実施できませんでした。

Ⅴ　施設の運営管理

1．　防災安全管理

（1）実施した訓練、点検等

①総合防災訓練　　10/10 実施

②避難訓練　　通常訓練　4/27、5/29、7/24、8/21、9/7、12/21、1/22、3/29
（うち、都留市消防本部への通報訓練 5/29　）

夜間訓練　6/26、11/28（うち、都留市消防本部への通報訓練 11/28　）

（中止：2 月　新型コロナ感染拡大のため）

③消防用設備点検　　10/6、3/7　点検（点検実施業者　株式会社市陸）

④電気工作物保守点検　　4/18、6/15、8/10、10/19、12/25、2/27　点検

（点検実施業者　一般財団法人関東電気保安協会）

⑤救命救急講習会　10/10　実施　（講師　都留市消防署職員の救命救急士）

２．施設・設備の整備

令和 5 年度は、故障、破損等による対応として、PAS(高圧気中負荷開閉器)、食堂・作業棟エアコン取付、スプリンクラー増設、エレベーター停電時自動着床装置、ガス乾燥機取付、消防用設備不良箇所の交換・修繕を随時行いました。

また、保護者様より寄附をいただき施設車（使用目的・通院、買い物支援等）を購入をしました。

３．職員の研修

令和 5 年度は、各種研究大会への参加の他、施設内研修の実施やオンライン等を活用した外部研修にも参加しました。

（1)各種研究大会

①令和 5 年度全国知的障害関係施設長等会議

②令和 5 年度関東地区知的障害関係施設種別代表者会議（長野大会）

③令和 5 年度全国知的障害福祉関係職員研究大会（山梨大会）

（２）施設内研修　山梨県の出張講座等を利用し研修会を開催することが出来ました。

①感染対策に関する研修　5/25「施設感染症対策について」

講師　富士東部保健所　雨宮彩花氏　参加 18 名

②虐待防止に関する研修　7/20「虐待防止・身体拘束の廃止について」

講師　山梨県権利擁護センター　坂村裕輔氏　参加 26 名

③歯科講習に関する研修　9/29

講師　戸澤歯科医院　歯科医師　戸澤寿乃氏　参加 20 名

④AED 講習に関する研修 10/10

講師　都留市消防署職員　参加 29 名

⑤防災に関する研修 2/6「自然災害と防災・減災対策について」

講師　富士東部県民センター　柏木貞光氏　参加 20 名

⑥交通安全に関する研修 2/29「交通事故の抑止対策について」

講師　山梨県大月警察署　近藤教憲氏　参加 12 名

（３）県内各種研修会

①山梨県

・「山梨県相談支援従事者現任者研修」　集合研修　参加２名

②山梨県障害者支援協会

・「強度行動障害支援者養成　基礎研修」　集合研修　４回開催　参加２名

・「強度行動障害支援者養成　実践研修」　集合研修　４回開催　参加２名

Ⅵ　苦情解決

福祉サービスに対する利用者の満足感を高め、利用者個人の権利を守るために、山梨福祉事業会で定める「福祉サービスにおける苦情解決の仕組みに関する細則」に従い、利用者本人、家族、代理人等からの苦情に対応しました。苦情を密室化せず、社会性や客観性を確保し、円滑、円満な解決の促進、宝山寮の信頼性や適正な運営の確保を図りました。第三者委員は、山梨福祉事業会の２名の監事に依頼しています。

１．令和５年度相談・苦情内容

利用者同士のトラブルについての苦情	３件
職員・施設に対しての苦情	２件

２．　苦情への対応について

上記５件の苦情について、苦情受付担当者が申出人からの苦情（要望）内容や意向を調査・確認して、苦情解決責任者に報告。当事者を交えて解決策を話し合い、申出人に不満が残らない方法で解決しました。また、苦情解決公表を施設掲示板及び宝山寮機関紙に掲載し周知を図りました。なお、申し出人から第三者委員への報告の要望はありませんでした。

Ⅶ　入所者の状況

利用者数、年齢別状況、利用期間及び入退寮状況等は、別表（1）～（4）のとおりでした。

利用者数は、60名（男性36名、女性24名）ではじまり、年度中に２名（女性２名）の利用者の利用契約の終了と、翌月には２名（男性１名、女性１名）の利用契約の開始で年度末には60名が在籍しました。

利用期間は、平均18.0年（男性19.3年、女性16.8年）、年齢については、平均53.1歳（男性55.6歳、女性50.6歳）となりました。

（参照）　　　別表　（1）月別利用契約状況（施設入所支援）

（2）市町村別利用契約状況（施設入所支援）

（3）年齢別状況

（4）在寮期間の状況（施設入所支援）